

大学生はいつ学習しているのか

中島 ゆり

長崎大学大学教育イノベーションセンター

When Do College Students Study?

Yuri NAKAJIMA

Center for Educational Innovation, Nagasaki University

Abstract

This study aims to explore when and how many hours college students study. The Ministry of Education (MEXT) has encouraged universities to make their students study more outside classroom. On the one hand, the Ministry also encourage students to do extra curricular activities. This study explores when and how many hours students study by conducting survey on the students' records of daily study in the Nagasaki University. This paper shows the current pictures of students' daily study behavior. Moreover, it analyzes the differences of when and how many hours students study in grade and GPA. For example, higher GPA students tend to study before and after class, and between classes. To conclude, I suggest that university need to think what to do for making students study more in a broad sense.

Key Words : College students, Study time, Institutional Research (IR)

1. はじめに

大学教育の質保証として単位制度の実質化が求められており、その指標の一つとして大学生の授業外学修時間がある。大学設置基準によれば1単位を取るためには授業時間を含めて45時間の学修が必要となる。ある Semester (15週) に2単位の授業(各90分)を履修すると週4.5時間の授業外学修が必要となる計算である。もし学生がある Semester に20単位を取ろうとすると週45時間(毎日平均6.4時間)の授業外学修が必要となるということである。

しかし、学生は授業に出るほか、サークル活動や、近年ではインターンシップ、また、アルバイトにも従事しており、忙しい毎日を過ごしている。これらの活動は学生が勝手に行っているだけではない。文部科学省は学生に知識・理解のほか、汎用的技能(コミュニケーション・スキル、数量的

スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力)、態度・志向性(自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力)、総合的な学習経験と創造的思考力といった「学士力」を大学生活で身につけることを求めているが、このような能力を身につけるうえで、正課教育だけではなく正課外教育や課外活動も重視されている。

文科省は2000年の「大学における学生生活の充実方策について(報告)―学生の立場に立った大学づくりを目指して」のなかで、「正課外教育の積極的な捉え直し」として「正課教育や正課外教育の中で、学生が社会との接点を持つ機会を多く与えたり、また、学生の自主的な活動を支援するなど、各大学がそれぞれの理念や教育目標を踏まえ、個性化や多様化を進める中で適切に取り組んでいくことが期待される。その際、従来、正課教

育を補完するものとして考えられてきた正課外教育の意義を捉え直し、そのあり方について積極的に見直す必要がある」とし、「多様な学生が入学してくる現在の状況下において『学生中心の大学』づくりを進めるためには、教員自身がまず、正課教育はもちろんのこと、正課外教育も含めた大学生活全般の中で、学生の人間的な成長を図り、自立を促すため適切な指導を行っていくことが教員の基本的責任であることを明確に認識する必要がある」と述べている。このような理念のみならず、河井（2015）は、実際の調査結果をもとに「正課外は、学生にとって、自らが主体性をもって他者と協働して活動に取り組んでいく場として学生生活の中で重要な位置を占めている」（p. 38）と正課外教育の意義を評価している。

また、課外活動も勧められている。2008年の「学士課程教育の構築について（答申）」のなかでは、「学士課程教育を通じて到達すべき学習成果は、こうした科目（注：基礎教育、共通教育、専門基礎教育、専門教育）のみでなく、課外活動を含め、あらゆる教育活動の中で、修業年限全体を通じて培うものである」と述べられている。

このように、大学教育は正課の授業を通してだけでなく、正課外教育や課外活動を通して進めることが求められているが、このような総合的な学習を、いまの学生はいつ、どの程度、行っているのかについては明らかになっていない。以下では、長崎大学の学生の学習行動について検討していく。

2. 調査の概要

長崎大学大学教育イノベーションセンターでは学生の授業外学習時間を正確に測定するため、2016～2018年度の3年に渡り、生活時間記録法による調査を実施している。この方法を用いるのは典型的な1週間の学習時間について回顧的に選択肢を選択してもらう測定方法で得られた学習時間と、ある特定の1週間について、生活時間記録法によって細かく行動を記録してもらう測定方法で得られた学習時間には少なくないずれがあることが分かっているからであるが、それは回顧的に選択肢を選択してもらう上で、毎日の学習時間を足し

合わせなければならないが、そのときにミスが生じるせいでと考えられる（中島 2017）。このため、本調査では12月の2～3週目の月曜日から日曜日まで毎日、ウェブ上のアンケートサイトに、その日の「学習に関する活動の時刻、学習内容、学習カテゴリー（A、B、C）、時間（分）」について報告してもらうことで、できる限り、正確な時間を測定することを試みた。

学習カテゴリー（A、B、C）については、Aは「大学の授業」、Bは「授業に関連する学習」、Cは「授業に直接関係しないもので、何かを学ぼうとしておこなった活動」と定義し、それを提示した。また、Cについては下記の具体例も例示した。

※Cの「授業に直接関係しないもので、何かを学ぼうとしておこなった活動」とは？

たとえば・・・

- 電車の中で英語のリスニングをする
- ご飯を食べながら単語帳で単語を覚える
- 就職試験対策の勉強をする
- 外国語を身につけることを目的としてYouTubeを見たり洋楽を聞いたりする
- 歴史を学ぶために本を読む
- 社会情勢を学ぶために新聞を読む
- コミュニケーション能力を高めるために接客のアルバイトをする
- 英語を勉強するために英語サークルの活動をする
etc.

つまり、「何かを学ぶこと」を主な目的としておこなっている活動全般のことです。

また、Cについて分析時には、公務員や教員採用試験、就職試験対策、TOEICのための学習、英語のリスニングなど一般的なイメージの学習はC1、それ以外の、たとえば、コミュニケーション能力を高めるために接客のアルバイトをする、教員になる上でよりよい教え方を学ぶために塾講師をする、などの一般的な学習のイメージに合わないものはC2としてアフターコーディングを行った。

本調査は1週間毎日、学生に調査協力をしてもらう必要があるため、インセンティブとして、7日間の協力に対し1,000円、5～6日間の協力には500円のQuoカードを進呈している。なお、4日以下の協力についてはインセンティブを与えず、でき

るだけ7日間毎日、回答してもらうよう促した。

調査対象者は2016年度には1、2年生、2017年度、2018年度には1年生と3年生を対象とし、学部・学科、性別、GPA、1、2年生については、履修している教養教育（モジュール）のテーマを考慮した上で、ランダムに抽出した。GPAについては3.0以上を高GPA、2.5以上3.0未満を中GPA、2.5未満を低GPAと定義した。2018年度の調査対象者数は393人、有効回答者数は152人、回答率は38.7%であった。

3. 学生の週平均学習時間

2018年度の調査結果から週平均学習時間を確認しよう。表1にはA、B、Cの各カテゴリーの週平均時間のほか、授業に直接関係しない一般的なイメージの学習時間（C1）、授業外学習時間の合計として、授業に関連する学習時間（B）+授業に直接関係しない学習時間（C）、授業に関連する学習時間（B）+授業に直接関係しない一般的なイメージの学習時間（C1）の結果も示した。

表1を見ると、授業時間（A）は週平均14.1時間、すなわち、90分1コマとすると週平均9.4コマを受講していることが分かった。また、授業に関連する学習（B）については週平均8.6時間、授業に直接関係しない学習（C）は5.0時間であるが、一般的なイメージの学習に限ると2.7時間であった。一般的なイメージではない学習のうち、長時間を占めているのは、主に塾講師や接客業のアルバイトとサークルであった。BとC1を合わせた一般的な授業外学習時間は11.3時間であった¹。

授業外学習時間を学年別とGPA別に見ると、1年生より3年生の方が授業時間は短い、B+C1の授業外学習時間は14.0時間と長い。また、GPAが高い方が授業時間もB+C1の授業外学習時間も14.8時間と長かった。

表1 学年別、GPA別 学習時間（週平均時間）

	N	A	B	C	C1	B+C	B+C1	
学年別	1年生	80	14.6	7.6	2.9	1.2	10.6	8.8
	3年生	72	13.6	9.6	7.2	4.4	16.8	14.0
GPA別	高	72	15.5	10.7	7.1	4.1	17.9	14.8
	中	49	13.4	7.5	3.2	1.2	10.7	8.7
	低	31	12.2	5.3	2.7	1.9	8.0	7.2
全体	152	14.1	8.6	5.0	2.7	13.5	11.3	

それでは、つぎに、学生の一週間の学習行動の詳細について見ていくことにする。

4. 学生の1週間の学習行動

本節では、全体的な学生の学習状況を平日と週末に分けて確認する。以下では学年別に調査協力者全員分の月曜日、水曜日、金曜日の平日と、土曜日、日曜日の週末の学習状況についてまとめた図を提示する。凡例は図1の通りである。

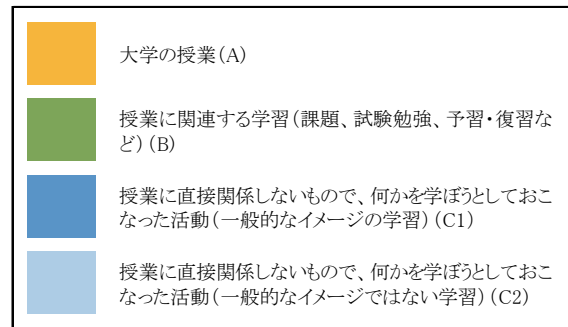


図1 凡例

4.1 平日の学習行動

長崎大学では1、2年生については「全学モジュール」という教養教育を実施している。ここでは学部ごとに指定された履修曜日以外に開講される全学モジュールテーマを選択することはできない。具体的には、多文化、教育、経済、薬学部の1年生では月曜日、火曜日のモジュール、医学、歯学、工学、環境科学部は木曜日、金曜日のモジュールを履修する。水曜日は主に語学や情報を履修する曜日となっている。

図2～図7は、学年別に平日の学習行動を可視化した図である。学習行動はGPAが高い方から降順に並べてある。

1年生の結果について、GPAの高低で比較すると、顕著な学習行動の差は見られないが、GPAの高い者では授業の前後両方や授業の空き時間に何らかの授業外学習を行う者がいるが、GPAの低い者では授業の前、または後のどちらかのみしか授業外学習を行っていない傾向にある。しかし、低GPAに限らず、授業以外に全く学習する時間のない者も少なくない。とくに水曜日は授業時間も短い、その分、授業外学習に時間に費やしているわけではなく、一日を通して学習時間が少なくな

っている。

3年生について見ると、1年生より多様な過ごし方をしており、授業外学習時間の長い者もいれば、授業を含めてほとんど学習を行っていない日がある者もいる。3年生では夜遅く、あるいは朝早くに学習する者もいる。授業よりも、授業に直接関係しない学習を行う方が多い者もいるようである。1年生では水曜日に学習を行う者は比較的少なかったが、3年生だと曜日はあまり関係なく

なる。GPA 別に見ると、1年生と同様、顕著な差は見られないが、授業に関連する学習、授業に直接関係しない学習の両方とも GPA が高い者の方が行っているように見える。GPA の低い者は授業に関連しない学習を行っているから大学の課題がおろそかになり、その結果、GPA が低くなっている、というわけではなく、全体的に学習行動をしない傾向にあるようである。

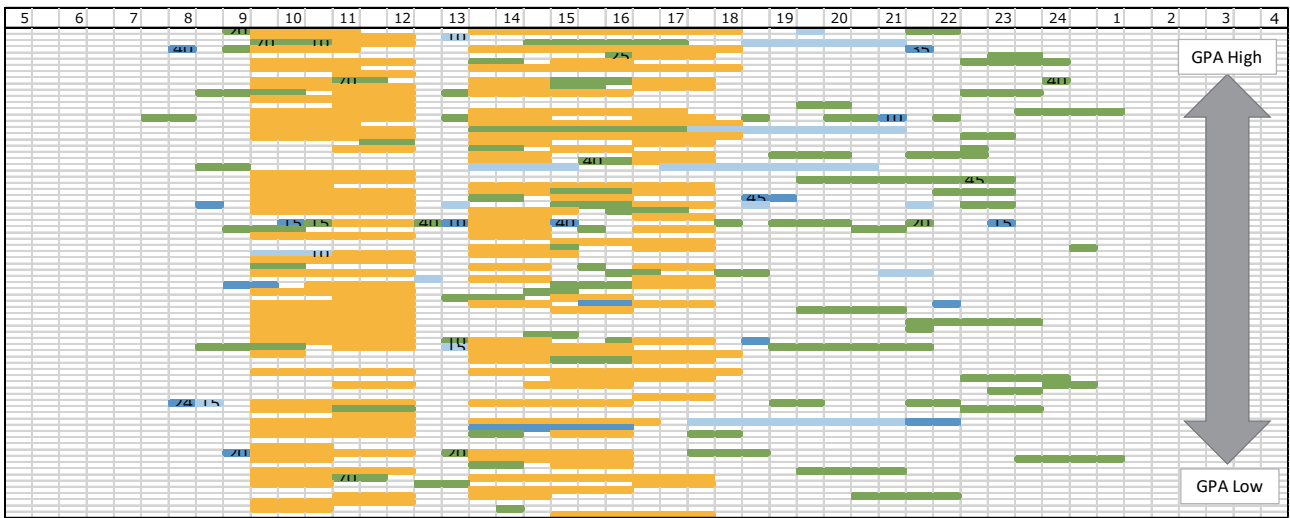


図2 1年生 12月10日(月)²

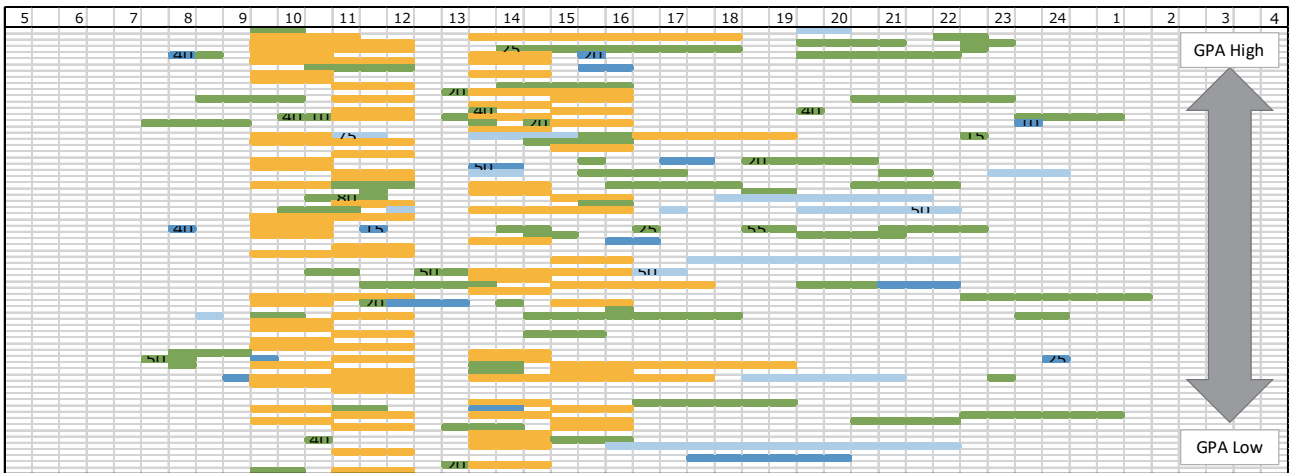


図3 1年生 12月12日(水)

大学生はいつ学習しているのか

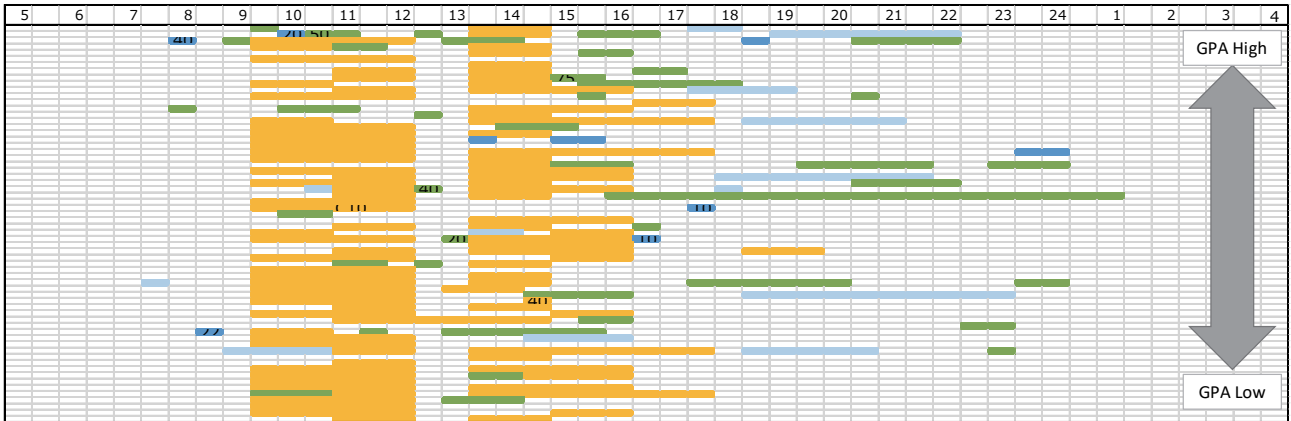


図4 1年生 12月14日(金)

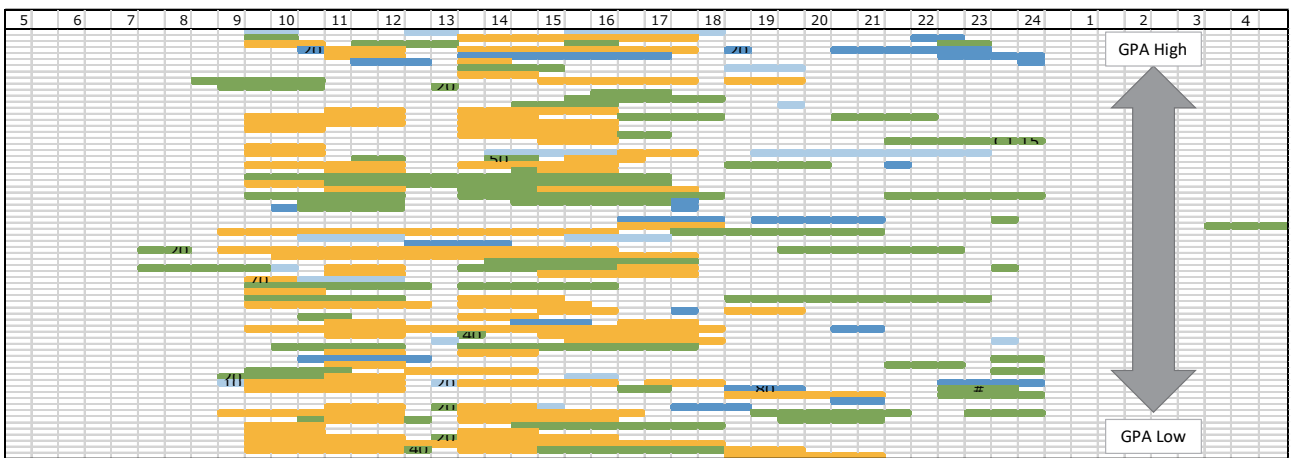


図5 3年生 12月10日(月)

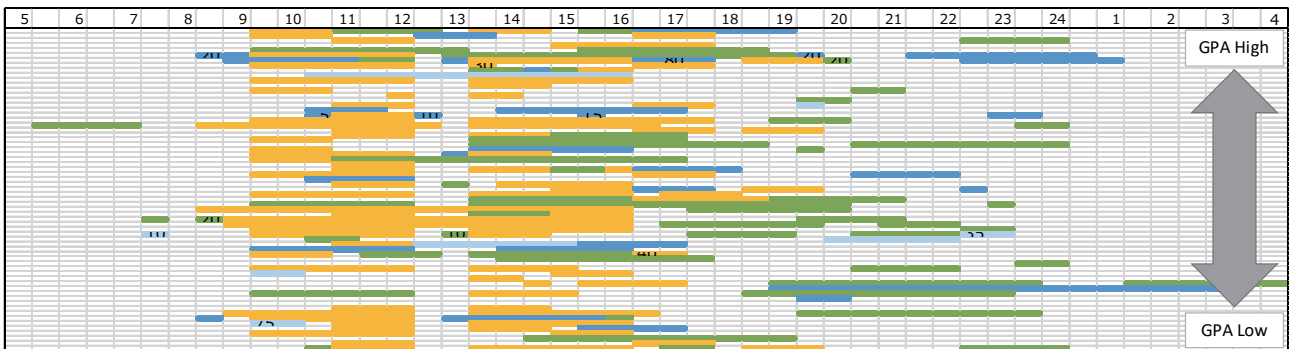


図6 3年生 12月12日(水)

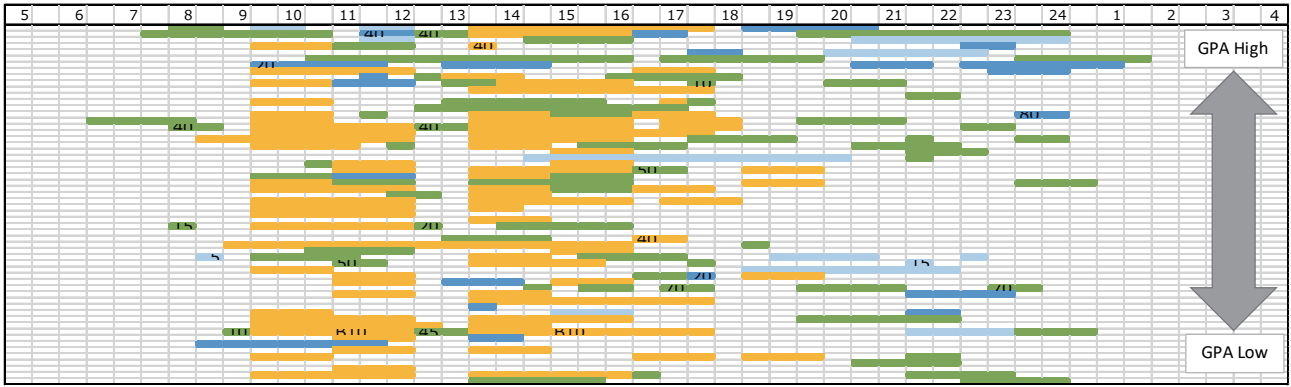


図7 3年生 12月14日(金)

4.2 土日の学習行動

つぎに図8～図11で土日の学習行動について見ると、平日と比べて圧倒的に学習時間は短い、それでも、とくに授業に関連する課題を行っている者は少なくない。ただし、その1回の時間はと

くに1年生で短いものである。授業に関連する学習は授業前日の日曜日に行う者が多いが、授業に直接関連しない学習については土曜日に行う者が多いようである。しかし、平日以上に、全く学習行動が見られない者も多い。

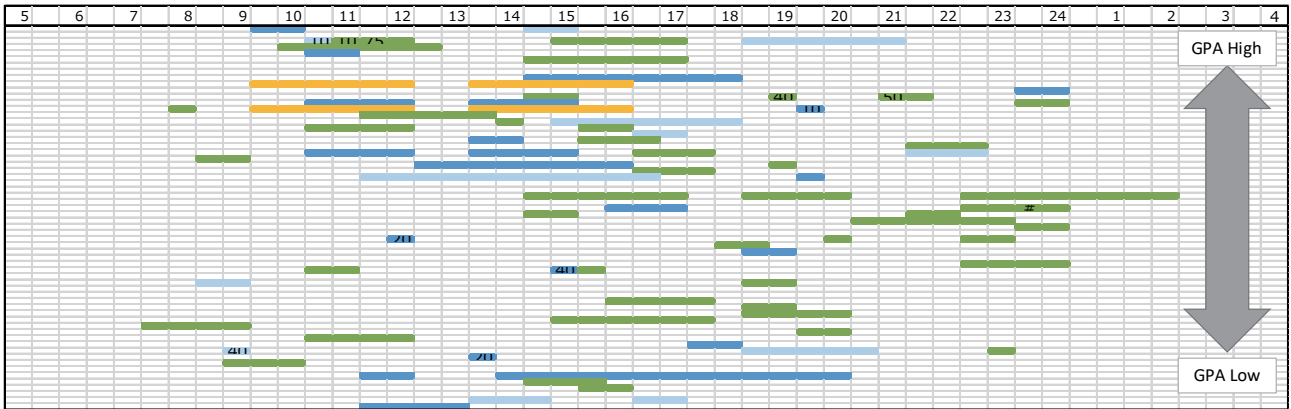


図8 1年生 12月15日(土)

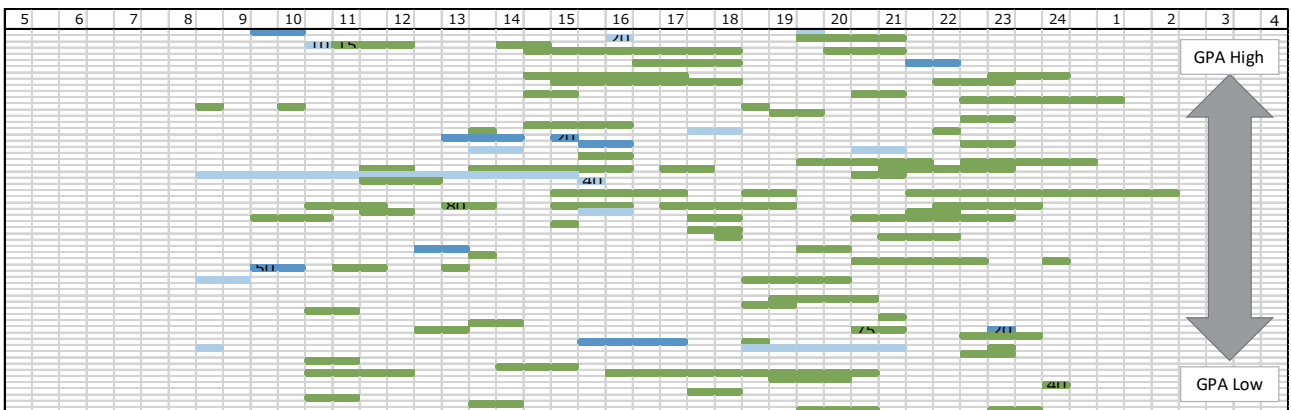


図9 1年生 12月16日(日)

大学生はいつ学習しているのか

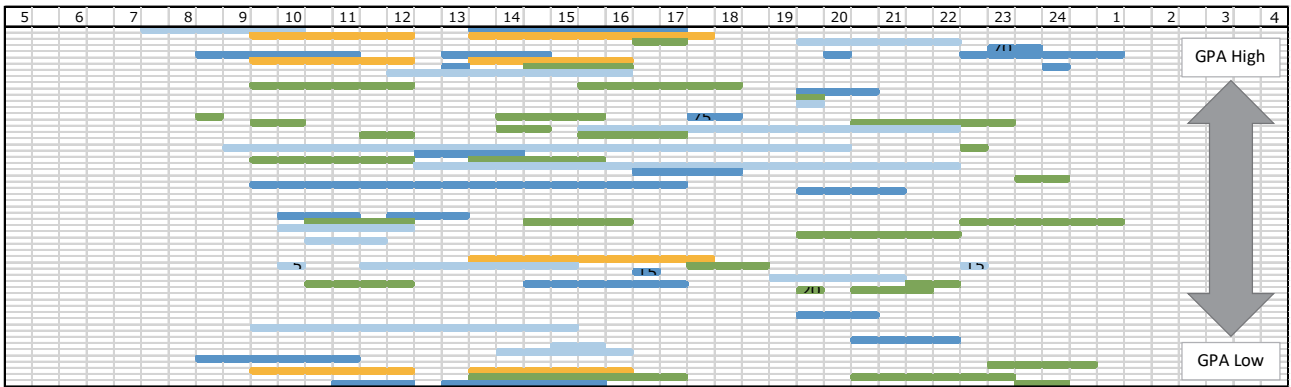


図 10 3年生 12月15日(土)

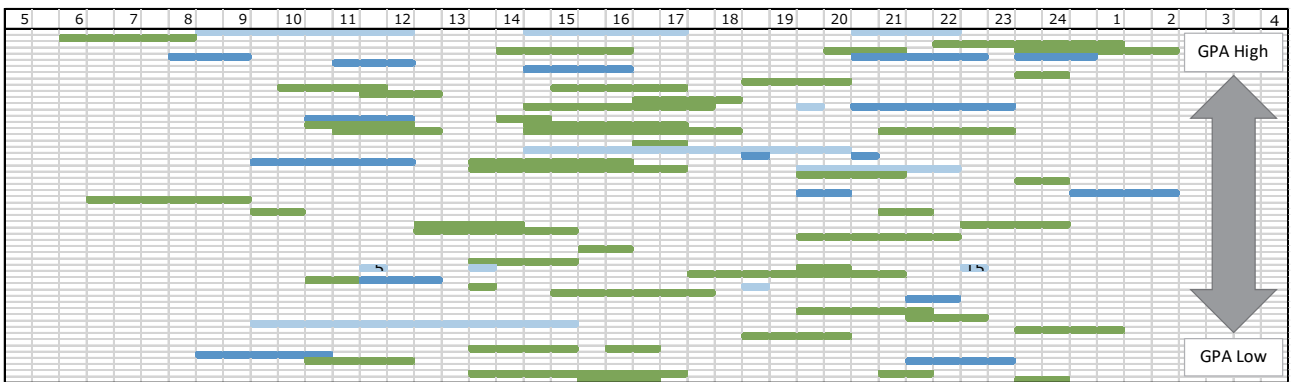


図 11 3年生 12月16日(日)

5. 学習時間の長い学生と短い学生の1週間

前節では調査協力学生全体の学習行動について可視化してきたが、本節では、とくに学習時間の長い学生と短い学生に焦点を当て、かれらの1週間の行動について詳細に見ていくことにする。

5.1 学習時間の長い学生

まず、学習時間の長い学生がいつ学習しているのかについて見ていこう。図 12～図 16 は学習時間の長い調査協力学生 5 名の 1 週間の学習行動をまとめたものである。

学生 A は保健学科の 3 年生で、大学の授業が週 28.5 時間と長い、これは看護学実習が入っているためである。授業外でも実習に関する学習と実習記録の作成によって学習時間が長くなっている。実習のない水曜日は午前から実習記録やレポートの作成、疾患等の知識についての勉強をしているが、実習のある日は、実習後の夕方から実習記録をまとめている。

学生 B は教育学部の 3 年生で、午前から夜遅く

まで空いた時間に教員採用試験の勉強を長時間しているほか、登下校中に英語のリスニングも行っている。このため、授業に直接関係しない学習の時間が非常に長くなっている。

学生 C は薬学部の 1 年生であるが、英語ですべての授業が実施される長崎大学のグローバル+コース (Special Courses in Academic Skills : SCAS) に参加している。授業のほか、語学の勉強と試験勉強の時間が長い。学習は午前よりも夜することが多いようである。

学生 D は工学部の 1 年生でモジュールの授業時間が長く、それに関連する課題と予習の時間が長めである。この学生の履修しているモジュールテーマでは課題が多めに出されていると予想できる。また、この学生は朝にニュースを見ることを習慣としている。

学生 E は経済学部の 1 年生であるが、授業に直接関係しない学習時間が長い。TOEIC の勉強をしているほか、読書時間が多く、また、家庭教師として勉強指導をすることで自身も学んでいると考

えている。授業に関する学習時間はそれほど長いわけではないが、それでも毎日1時間から3時間程度勉強している。

以上のように、学習時間の長い学生には3年生が多く、その理由としては実習が入っていたり、教員採用試験等の勉強をしたりしているからであ

ることが多かったが、1年生でも授業に関連する課題が多かったり、TOEICの勉強をしていたり、または家庭教師や塾講師のアルバイトのために勉強をしたりすることで学習時間が長くなっていることが分かった。これらの学生はGPAも高い者が多かった。

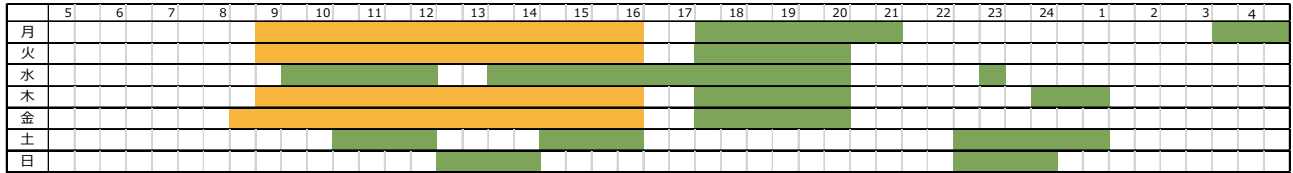


図 12 学生 A (3年生、保健学科、GPA 高、A : 28.5 時間、B : 39.0 時間、C1 : 0 時間、C2 : 0 時間)

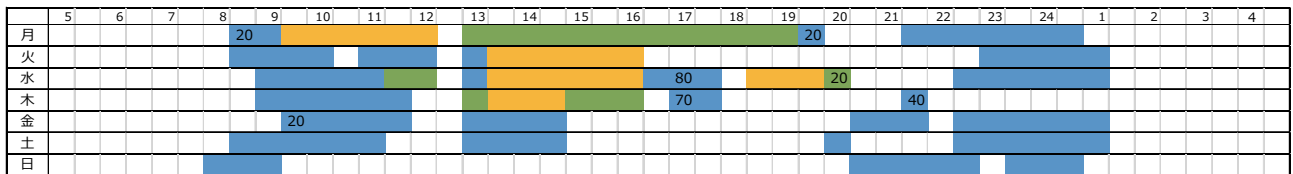


図 13 学生 B (3年生、教育学部、GPA 高、A : 12.0 時間、B : 8.3 時間、C1 : 45.5 時間、C2 : 0 時間)

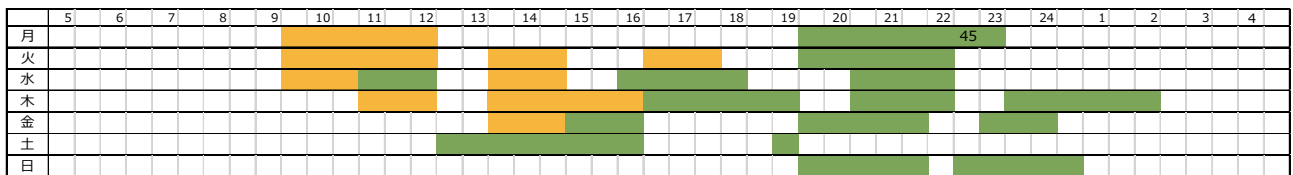


図 14 学生 C (1年生、薬学部、SCAS 参加、GPA 高、A : 18.0 時間、B : 36.2 時間、C1 : 0 時間、C2 : 0 時間)

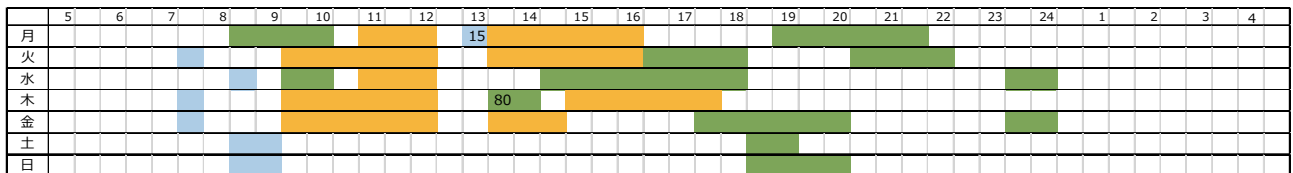


図 15 学生 D (1年生、工学部、GPA 中、A : 22.5 時間、B : 25.3 時間、C1 : 0 時間、C2 : 4.3 時間)

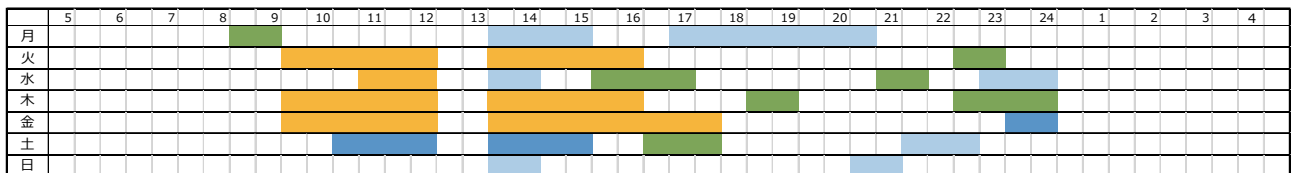


図 16 学生 E (1年生、経済学部、GPA 高、A : 21.0 時間、B : 9.5 時間、C1 : 5.0 時間、C2 : 12.0 時間)

5.2 学習時間の短い学生

つぎに、図 17～図 19 で学習時間の短い学生の1週間について見ていこう。

学生 F は経済学部の1年生である。授業は週12.0時間、授業に関連する学習は週4.5時間であ

る。授業以外の学習は土日と月曜日に行い、ほかの日は授業以外に勉強している様子はない。この学生のGPAは低い。

学生 G は保健学科の3年生であり、学生 F と同様、授業以外の学習時間は5.0時間と短めであっ

た。GPA は高い学生であるため、要領よく勉強できるタイプである可能性はある。

学生 H は多文化社会学部の 3 年生であるが、授業に関係しない語学の学習時間は 11.5 時間と長い。この学生が履修している授業で課題がほとんど出ていないか、または、課題が出ていたとしても、こ

の学生が課題をしていない可能性がある。

以上のように、学習時間の短い学生は、授業以外の学習は最低限の課題をするのみか、または、課題はせずに授業に直接関係しない学習を行っているかであった。GPA の高い者も中にはいるが、学習時間の長い者と比べて、GPA は比較的低い傾向にあった。

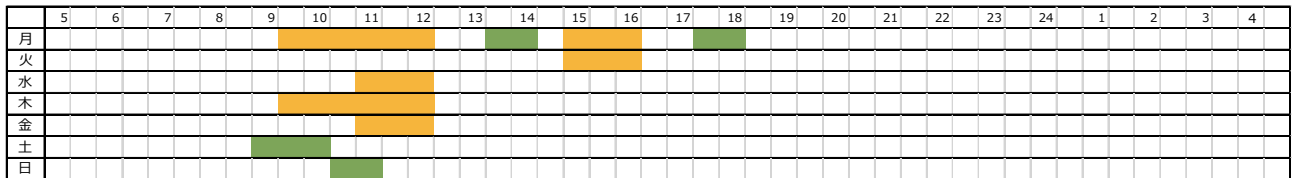


図 17 学生 F (1 年生、経済学部、GPA 低、A : 12.0 時間、B : 4.5 時間、C1 : 0 時間、C2 : 0 時間)

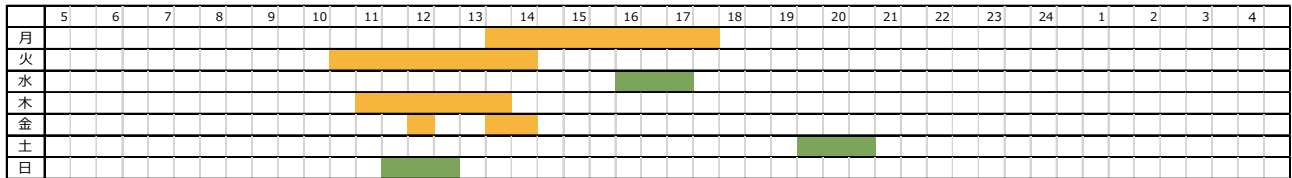


図 18 学生 G (3 年生、保健学科、GPA 高、A : 13.5 時間、B : 5.0 時間、C1 : 0 時間、C2 : 0 時間)

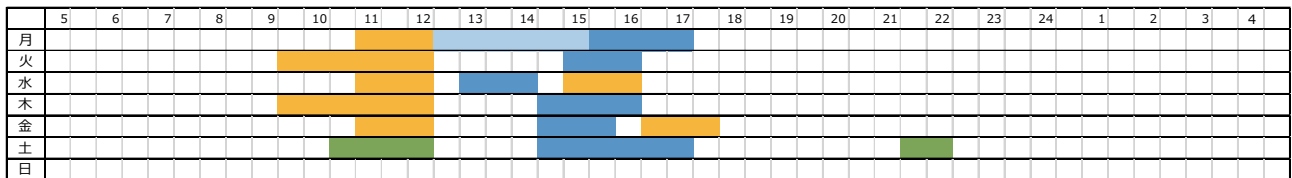


図 19 学生 H (3 年生、多文化社会学部、GPA 中、A : 12.2 時間、B : 3.0 時間、C1 : 11.5 時間、C2 : 3.0 時間)

6. おわりに

本稿では、生活時間調査法による学習時間調査によって、学生がいつ、どの程度、学習しているのかについて確認した。まず、本学の学生の授業外学習時間は週平均 11.3 時間であるが、これは学年と GPA によって異なり、1 年生より 3 年生、GPA が高い方が授業外学習時間が長いことが分かった。

学年別に 1 週間の学習行動を図にして可視化すると、長崎大学の 1 年生は明らかに水曜日の学習行動が少ないことが分かった。また、1 年生でも 3 年生でも、GPA の高い者の方が授業の前後や空き時間に学習しているが、GPA の低い者は授業の前または後のどちらかのみ学習する傾向にあった。

とくに 3 年生では授業に関係しない学習についても GPA の高い者の方が低い者よりも行っていることから、GPA の低い者は授業に関係しない学習を行っているから大学の課題がおろそかになり、その結果、GPA が低くなってしまったというわけではなく、全体的に学習行動をとらない傾向にあることが示唆された。

学習時間の長い学生と短い学生の 1 週間を詳細に見ると、学習時間の長い学生には 3 年生が多く、授業に関連する学習時間や教員採用試験などの試験対策を毎日、数時間の単位で行っていることが分かった。1 年生でも授業に関連する課題が多かったり、TOEIC の勉強をしていたり、または家庭教師や塾講師のアルバイトのために勉強をしたり

すると学習時間が長くなっていた。これらの学生は GPA も高い者が多かった。対して、学習時間の短い学生は、授業以外の学習は最低限の課題をするのみか、または、課題はせずに授業に直接関連しない学習を行っているかであった。GPA の高い者中にはいるが、GPA は中または低の者が多かった。

本調査から、学習行動と GPA との間には関連があると考えられるが、それは、課題などの授業に関連する学習のみならず、採用試験の勉強など授業とは直接関係のない学習も含まれる。そこには学ぶために行う課外活動やアルバイトも含まれる。授業に関係するかどうかは別として、何らかの学習をしようとするか否かに差があるのである。多くが放課後に学習行動をとるが、授業の前後や空き時間といった隙間時間に学習するかに違いが見られ、それは GPA とも関連しているようであった。

学習行動の差は、学生間の意識の違いや採用試験・TOEIC の受験の有無といったキャリア展望の違いによって当然、生まれるが、大学側の問題もある。本調査の結果を見ると、課題がほとんどない、あるいは、やらなくても済む、といった授業もかなりあるのではないかと推測できる。実際、授業以外ほとんど学習していない者が少なからずいることが確認できた。空いた時間はサークルやアルバイトに費やしているのかもしれないが、本人はそこで何かを学ぼうとしているわけではなかった。もちろん学んでいるということ意識化せずとも、いつの間にか学ぶこともあるだろうが、そのみに期待してよいだろうか。

大学教育の質保証のためには、授業に関連する課題を増やしたり、隙間時間に学習できるような環境整備と風土の醸成をしたりといった、学習時間の短い学生が、正課教育に限らず、正課外教育、課外活動を含めた広い意味での学習行動をとる仕掛けを大学がうまく作っていく必要がある。

注

1. 2017年度の同調査では B+C1 が 11.6 時間であり、長崎大学の学生は週平均 11 時間強の授業外学習を行っていることはたしかなようである。
2. 本調査は 12 月 10 日（月）から始めたが、途中脱落者もあり、結果として月曜日の調査参加数が最も多くなっている。

参考文献

- 河井亨 (2015) 「正課外教育における学生の学びと成長」『大学時報』 pp. 34-41.
- 文部科学省 (2000) 「大学における学生生活の充実方策について (報告) — 学生の立場に立った大学づくりを目指して」.
- 文部科学省 (2008) 「学士課程教育の構築について (答申)」.
- 文部科学省 (2008) 「参考資料 9 各専攻分野を通じて培う「学士力」— 学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針」.
- 中島ゆり (2017) 「大学生の授業外学習時間の再検討」『長崎大学大学教育イノベーションセンター紀要』 8、pp. 17-25.
- ※本調査研究は長崎大学「大学教育再生加速プログラム (AP 事業)」の一環として実施した。
- ※調査結果の集計は長崎大学大学教育イノベーションセンターのテクニカルスタッフである太田啓介氏、喜多まゆ美氏が行った。